

# いずよう魅力化協議会だより

NO. 3 令和4年3月発行

## 第3回いずよう魅力化協議会

2月22日に開催した第3回「いずよう魅力化協議会」の様子をお知らせします。

今回は8名の委員にご出席いただきました。

### ディスカッション

#### テーマ1

##### グランドデザインについて

育成したい児童生徒像「地域で生きる人になる」についても提案しました。

委員からの意見（抜粋）

○「地域」というキーワードはとても共感できる。我々が学校や生徒をどう支えていけばよいかを考えていきやすい。

○地域と共有していくならば、専門用語をわかりやすい表現にしたほうがよい（メタ認知等）。

表現をわかりやすく修正して本校のグランドデザインとすることについて承認をいただきました。

#### テーマ2 地域力を学校に取り込むにはどうしたらよいか

地域連携推進部の教員が今年度の取組紹介を行いました。紹介した取組の一部を掲載します。



生徒による校舎案内



神戸川太鼓鑑賞

委員からの意見（抜粋）

○企業側から特別支援学校のことを知るの難しいので、学校が積極的に知ってもらう機会を設け、企業のニーズと学校を繋げると良い。

○子どもたちに太鼓演奏をとおしてどんどん関わっていきたいと思っている。出雲養護の曲を作って一緒にステージで披露したい。そこに自分のWINがある。来校する度に生徒にはたくさんの可能性があることを感じている。

○コミセンの広報で情報発信ができるのでは。また、コミセンの専門部に特技を持つ方々がいるので、人材を活用し地域と交流できるのでは。

○市内の保育園の先生方が営業日に見学する機会を計画したい。卒業生が保育助手として頑張っている情報も発信して欲しい。

○県立大学は来年度40名の学生を出雲養護で体験学習させたい。作業製品などで学生と出雲養護がコラボレーションしたい。ICT活用でも連携していけるとよい。

○地域と共にある学校とは、地域に信頼される学校であることが大切。やってもらったからお返しをするという関係だけでなく、「子どもたちのため」という目標を学校も地域も共有して欲しい。

○いろいろな障がいや重度の子どもたちにとっても、どのように地域との連携が還元されるのかが大切。

学校と地域をつなぐ  
虹の架け橋をつくろう！  
～いずよう魅力化協議会～



